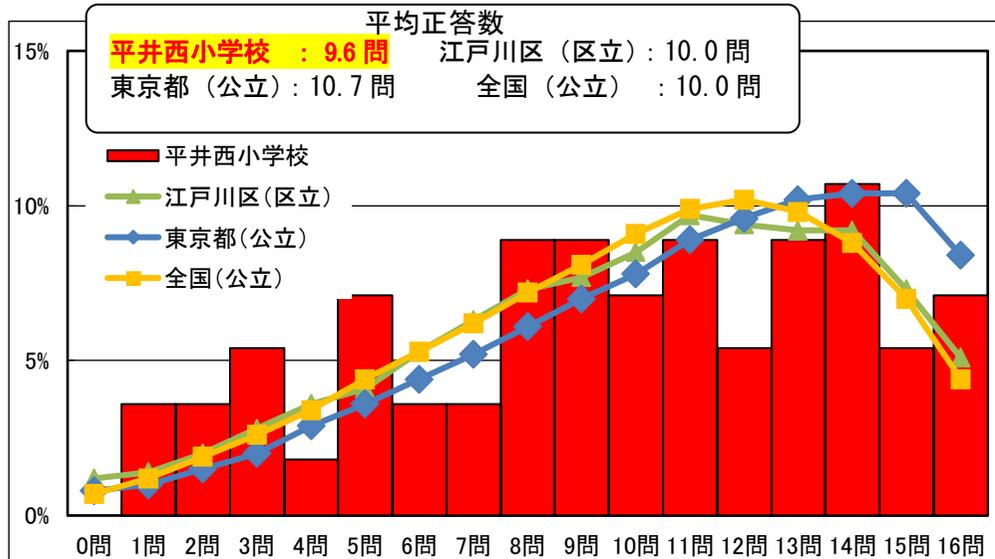
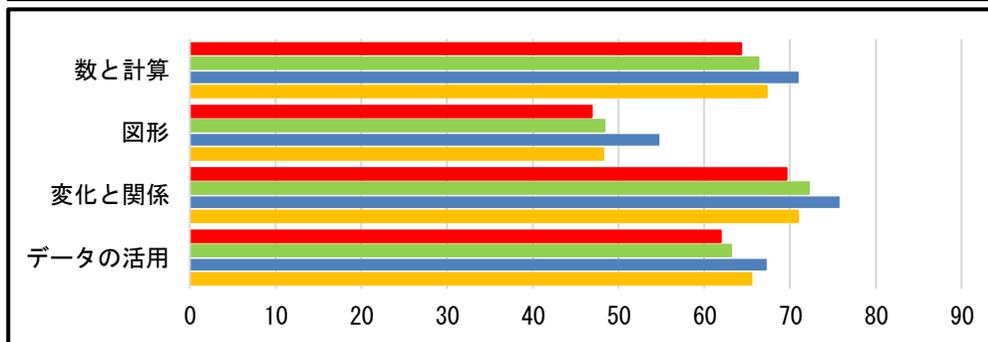
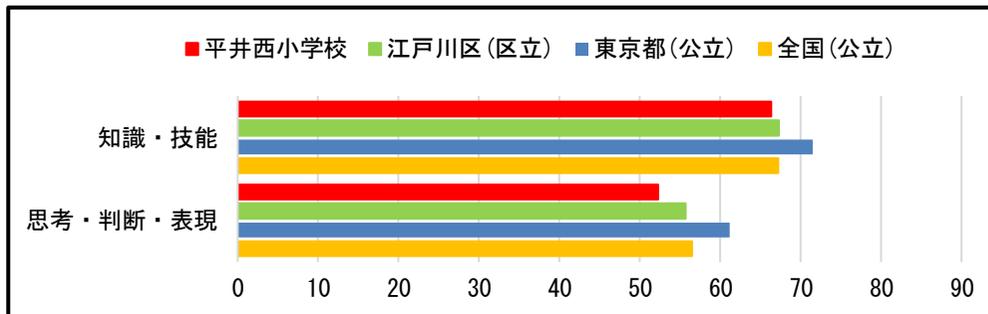


# 令和5年度 全国学力・学習状況調査結果と改善に向けて【算数】 平井西小学校

## 正答数分布



## 「領域別」の結果



## <四分位における割合(都全体の四分位による)>

算数	上位 ← 下位			
	A層 14~16問	B層 11~13問	C層 8~10問	D層 0~7問
<b>平井西小学校</b>	<b>13</b>	<b>13</b>	<b>14</b>	<b>16</b>
江戸川区(区立)	21.6	28.3	23.5	26.6
東京都(公立)	29.2	28.7	20.9	21.2
全国(公立)	20.2	29.9	24.4	25.5

## 【平均正答率の差】

<b>平井西小学校</b>	<b>60%</b>
江戸川区(区立)	62%
東京都(公立)	67%
全国(公立)	62.5%
都との差	<b>7ポイント</b>

## 【分析結果と授業改善に向けて】

「B 図形」「C 変化と関係」「D データの活用」「記述式」の4点が課題である。基礎基本の積み重ねと、各学年での既習事項との接続が大きい。当該学年にとどまらず、小学校6年間を通して縦で見ていく意識を教師自身も持って指導に当たっていくことが必要である。

低学年において、遊びやゲーム的な要素をふんだんに入れ、具体物を使い操作させながら、実感を伴った理解を促すようにする。操作を言語化することで、記述等の表現にもつなげていく。3~6年生における少人数算数では、学習内容や学習進度を習熟度に応じて計画的に進められるようにする。C、D層の児童については、より押さえないといけない内容を絞って取り扱い、反復学習を中心に計画する。B層の児童については、よりA層への底上げをねらい、習熟すべき内容の定着とともに、互いの考えを交流する場面を設けた学習を計画する。A層の児童については、児童自らが課題解決に向けて、自らの考えを表現したり、友達と主体的に交流する中でより良い考えを見出していく学習を計画する。

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。下の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都(公立)のデータを基に定めている。